

県外派遣報告書

審判員名	眞榮喜 工	所属	クラブ連盟
大会名	第72回国民体育大会 関東ブロック大会		
期間	平成29年8月19日(土)・20日(日)		
会場	高崎市/高崎アリーナ		
スケジュール			
期 日	内 容	場 所	
8月18日(金)	審判会議	高崎アリーナB1審判控室	
8月19日(土)	1回戦	高崎アリーナ	
	A級研修会	高崎アリーナB1審判控室	
8月20日(日)	準決勝・決勝	高崎アリーナ	
会議 講義 内容			
<p>渡邊整 氏(関東ブロック長): 今大会は各カテゴリー1チームしか本国体への出場権を得られず、各都県それぞれ強い思いのあるとてもシビアなゲームになる。チームも各都県の選りすぐりのメンバーで臨んできているが、審判員も同様に精鋭されたメンバーなので自信を持ってコートに立ってほしい。正しく強いチームが勝ち上がり、本国体で関東代表として活躍することを強く願う。</p>			
<p>安西郷史 氏(日本協会): どの試合を誰が誰と担当しても同じ判定基準を示すということが求められる。その為の「ガイドライン」であり、その意図を理解しなければならない。・ゲームをクリーンにする(怪我をさせない)。・一流アスリートを判定し、商品価値を損なわないために。</p> <p>判定の要素として、FOM(Freedom Of Movement)を不当に妨げ、RSBQ(Rysm Speed Barance Quickness)に影響があるものをファウルとして取り上げる。誰の身体の中のどの部分が不当な接触を起こし、どのような影響があったかを判定する。これはオフェンスもディフェンスも同じ。大切なのはactionを判定し、re-actionを起こさせないこと。Block or Charge等の大きなインパクトがあったとき、グレーではなく白黒つけること。明らかなオフェンス・ファウルでなければ、多くはディフェンスに責任がありコールすべき事象となる。目の前の一つひとつをきっちり判定することで試合を管理し信頼感を得る。「ゲーム・マネージメントではなく、ゲーム・コントロール」</p> <p>2PO≠3PO。一人少ない分、多く動いて確認しなければならない。時には走ることも必要。大切なのは、今そこで行われているバスケットボールにAdjustすること。マニュアル、メカニクスは、より良い位置で確認し、判定するためのツールであり目的ではない。メカニクスを理解していても、判定力を持っていないければコントロールを失うし、どんなに判定力を持っていても、メカニクスを理解しプレーを確認できる良い位置取りが出来なければそれを活かすことは出来ない。どちらが大事ではなく、どちらもなくてはならないもの。判定にも動きにも根拠を持って取り組むこと。</p>			
<p>漆間大吾 氏(指名): 「映像の用い方」。記憶はすり替わることや思い違いが生じるが、映像は嘘をつかない。何にフォーカスして活用するか。Judge < Mechanics.判定が合っていたか間違っていたかも重要だが、それよりもなぜその判定に至ったか?その前段階にどうした方が良かったのか?誰がどこでどのタイミングから捉えていくのが良いのかを検証していく。何かトラブルがあった時やプレーヤーが感情的になっている時、その前に前兆や伏線はなかったのか?プレゼンテーションの工夫にも繋がり、活用方法はいくらでもある。得てして自分というのはいかしく見えてしまう。フラットに客観視していくことが大切。</p>			
<p>小澤勤 氏(日本協会): 3POメカニクスについて。コート内で行われていることにアジャストする。その為にクローズ・ダウン・ポジションを有効活用しローテーションのタイミングにも共通理解を図る。</p> <p>3人いるということは、1、5倍のコミュニケーションが必要となる。「恐らくわかっているであろう」という考えは捨て、些細なことでも情報を共有することが大切。ゲームがより良い方向へ進み、素晴らしいゲームだったと信頼されるRefでゲームを終えられるように。</p>			

実技				
担当試合	期 日	8月19日(土)	少年男子	1回戦
	対戦カード	茨城県	VS	神奈川県
	相手審判	渡邊 諭 氏(栃木県)		
ミーティング内容		主任 小澤 勤 氏(日本協会)		
<p>試合の入り、前半は落ち着いて確認していて良かった。第4ピリオド、試合の締め方。点差がついても、時間がかかっても、同じ基準で吹きとおすメンタルが必要。最後までアバウトにならないように。</p> <p>クローズダウンしていても、ショットの後に開く等のアジャストをすることで、リバウンドやインサイドプレーに対してよりオープンアングルを作る工夫を。</p> <p>主任の小澤氏に言われたように、試合が進み終盤になっても悪い手の使い方(控え選手)が続いてきたときに、進行時間を変に気にしてしまい、判定の幅が大きくなってしまった。時間やレベルがどうであれ、同じ判定基準で吹きとおし、こちらが選手に合わせるのではなく、選手がこちらの判定基準でプレイしてもらえるように強い意志が必要だと感じた。プレーを捉えるという意味では、常時連続して、いまコート内で行われていることに対してこちらがアジャストしていく努力を続けなければならない。</p>				
担当試合	期 日	8月20日(日)	少年男子	準決勝
	対戦カード	群馬県	VS	千葉県
	相手審判	CC:漆間 大吾 氏(指名・東京都) U1:長谷川 裕 氏(神奈川県)		
ミーティング内容		主任 茂泉 圭治 氏(神奈川県)		
<p>3人がそれぞれのプライマリーを判定していて良かった。存在感があることは良い部分でもあるが、プライマリーでないものに対する判定や示し方に工夫が必要。ベンチへの対応について、コーチの心理を理解しつつも然るべき判定を下さなければならないときの勇気と決断。</p>				
全体の感想				
<p>今大会は他のブロック大会よりも多くのS級審判員が派遣された。それぞれのカラーがありつつも、共通しているのは強さと根拠であった。どのカテゴリーであっても、コート上で行われるバスケットボールの質は違えど規則は同じ。それぞれの求めるものは何か。どうしたいのかを汲み取りながらも、コンダクターとして我々審判員がどのように進めなければならないのか。チーム、選手の行なっていることが規則として、バスケットボールとして誤った方向へ進みそうなときに、本来あるべき姿に導いていく。それ以外のところで目立って表に出ていくことの無いよう気を付けなければならないが、いざという時の存在感をどのように示すか。その点のメリハリが今後の大きな課題である。</p> <p>この度、群馬県協会の方々には細部にわたるまで御配慮頂き本当にお世話になりました。また、今大会へ派遣して下さった埼玉県協会、日頃活動を共にしている県内審判員の皆様へ、この場をお借りして御礼申し上げます。地元、所属を大事に今後も精進して参りますので、今後も御指導の程、宜しく願い致します。</p>				